



# 環境大レポート

第31号

Aug. 2018

K A N K Y O D A I R E P O R T



 特集 新学長就任インタビュー

2 3


## 魅力ある *Inaugural Interview.* 大学づくりのために

 **ESSAY**  
経営学部長として 経営学部長 矢野 順治

4

 **人事報告**  
着任挨拶

5

 **キャンパスピックアップ**  
環境学部 佐藤 准教授が廃タイヤを再生するキノコを国内で初めて発見しました  
「岩美むらなかキャンパス」が開所！研究・地域連携の拠点が広がります！  
2018年4月、食堂「すなばダイニング」OPEN！

6 7 8

 **クラブ&サークル活動・学友会活動報告**  
ソフトボール部・馬っこ部/学友会総会を開催


9

 **本学学生の取組**  
智頭の森ブランディング(磯野ゼミ)

10

 **プロジェクト研究**  
鳥取の海をテーマとした子供向け体験プログラムを考える

11

 **お知らせ**  
PRコーナー/主なスケジュール 平成30年9月～平成31年3月

12

# 魅力ある 大学づくりの ために

*Inaugural  
Interview.*

平成30年4月、  
新学長に江崎信芳が就任しました。学  
長就任にあたって、これからの大学教  
育の在り方や決意について聞きました。

## — Profile プロフィール —

1949年8月26日生。1973年に京都大学農学部農芸化学科を卒業後、大学院に進学。79年に京都大学博士（農学）を取得。その後、京都大学化学研究所に所属。83年に米国マサチューセッツ工科大学化学部への留学を経て、教授、所長に就任する。京都大学理事・副学長、名誉教授、放送大学京都学習センター所長、特任教授を歴任し現在に在る。

### 大学の印象は どうですか。

学生は、素直で折り目正しい学生が多いですね。みんな笑顔で挨拶してくれますし、ごみが落ちていけば自ら進んで拾ったりするなど、気付いたことを即実行できます。

また、起業した本学の卒業生達の影響もあるのかもしれませんが、将来、起業したいという学生がいることを心強く思っています。チャレンジ精神を身につける教育が本学には根づいているからでしょう。県外からきた学生の中に、将来、鳥取で仕事をして、鳥取で暮らしたい、という学生もいることが分かりました。そもそもそういう考えがあって本学を

志願した人もいるのでしょうか、入学後、次第にそういう考えになった人も多様な気がします。人間形成教育の必須科目である「鳥取学」やプロジェクト研究の影響が大きいのかもかもしれません。

### 大学づくりにあたって、 何を大切にされますか。

創立以来の基本理念である「人と社会と自然との共生」をしっかり堅持し、継続するのが私の使命だと思います。公立鳥取環境大学で学びたいという高校生が増えるような魅力ある大学をつくりたいですね。

私たちは「地球村」で生活しているととえる人がいます。今や人、お金、もの、情

報などが地球規模で動き回るようになりました。「地球村」のどこかで変化があれば、すぐに「村」全体に影響します。このようなグローバル化した世の中で求められるのは、生き抜く力であり、自らを変えていける力です。

本学での4年間で、自ら学ぶ力、常に自らをリニューアルできる力を養い、10年後、20年後にますます社会で活躍できる人材を育成したいと思います。

### 公立鳥取環境大学で 学ぶということをどのように 考えていますか。

現在では「持続可能な発展」のために学問領域を超えたアプローチも当たり前

になってきました。「持続可能な発展」という概念は「環境保全」と「経済発展」を人間社会の良好な進歩の両輪と考えています。環境学部と経営学部の2学部を有し、環境視点と経営視点を備えた人材を育成する本学は、国連が定めた「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に大いに貢献できる大学といえます。

本学は小規模な大学です。環境学部と経営学部の学生がそれぞれの専門分野をしっかりと学ぶとともに、相互乗り入れで一緒に汗を流して課題を見つけ、その解決策を探るためには、お互いが知り合いになる必要があるのです。規模は小さい方がよいと考えます。

## — どのような教育を展開していきますか。

本学は人間形成教育という柱を立てています。その根幹をなすのが、1・2年次に行うプロジェクト研究です。学部の壁を越えて学生同士協力しあい、フィールドに出て調査・研究をします。仲間と共同しつつ、自ら考えて行動することでたくましさをも身につけることを期待しています。

## — 地域連携についてはどのように考えていますか。

「岩美むらなかキャンパス」と、「まちなかキャンパス」、「西部サテライトキャンパ



ス」が、地域連携を進める対の拠点となります。フィールドがあればこそ、「人と社会と自然との共生」に貢献する人材を育成できます。3つのサテライトキャンパスを使って、地域に出て行き、温かい「人と人とのふれあい」の残る鳥取に触れ、歴史や自然を学び、地方の視点を身につけることが日本の未来をつくるうえで大切になると考えます。

## — 最後に、一言お願いします。

少子高齢化したわが国にとって大切なことは、ほんとうの幸せや豊かさとは何な

のかしっかりと考えてみることです。学生たちには、豊かな自然と長い歴史のある鳥取での勉学と生活を通して、地域の人たちの思いやニーズに気づき、課題解決できるたくましい大人への第一歩を踏み出してほしいと願っています。

本学は小規模な大学ですので、教職員が一丸となって学生1人ひとりと向き合います。





# 経営学部長として

経営学部長  
矢野 順治



皆さんは「インダストリー4.0」という言葉を聞かれたことはありませんか。ドイツが総力をあげて取り組んでいる巨大プロジェクトのことで、工業のデジタル化によって製造システムを根本的に変革しようとしています。このような試みが成功すれば労働コストを激減させる可能性があるといわれています。また「AIが人間の仕事を奪う」というようなショッキングな言葉も耳にされたことがあると思います。この奪われるという表現は正しい表現ではなく、人間の代わりにAIが行ってくれると解釈すべきです（第一次～第三次産業革命でどれだけの仕事を人間がやらなくてもすむようになり、どれだけ新しいことを人間ができるようになったでしょうか）。私の勉強している金融の分野でも高速取引と呼ばれる一秒間に何千回も取引を繰り返す

ようなコンピューター対コンピューターの闘いによる金融取引がますます重要になってきています（株式売買の40%に及ぶという説もあります）。

このようなITの進展がもたらすわれわれの経済社会の変化の例は、本当に枚挙に遑がありませんが、世界共通の変化です。次に日本について考えてみましょう。日本の働き方を語る時には終身雇用制、年功序列型賃金体系が必ず出てきます。しかし日本の働き方に特徴的なのはこのふたつだけではありません。皆さんのお父さん、お母さんがもし「お仕事は？」と聞かれたら、ほとんどの方は勤めていらっしゃる会社の名前をお答えになるでしょう。皆さんは社会人になって働き始めたら、係長補佐、係長、課長補佐、課長、次長、部長、役

員、社長と昇進してゆくと思いませんか？このような日本の働き方の特徴が将来大きく変化してゆく可能性が指摘されています。

このように皆さんがこれから活躍してゆかれるビジネスの世界は、日々変わり続けてゆきます。しかし皆さんが今勉強されている経営学の根本的考え方はどのような変動の波に襲われてもその価値を失うことはありません。むしろ激動の時代にこそ、皆さんの10年後、20年後にこそ、その真価を発揮します。



TUES Image Poster 2018

## イメージポスター2018の紹介

皆さんは、大学にイメージポスターがあることをご存知だったでしょうか？  
今年度の本学のイメージポスターについて紹介します。



〈 テーマ 〉 出発・始まり

〈 コンセプト 〉 「本当の豊かさ」を新しい発想で考える時代。

その新しい発想を生み出すために「環境視点」「経営視点」が必要になります。公立鳥取環境大学での学び、経験を通して知力、人間力、対応力を身につけ、大きな夢、希望を詰め込んで未来へ進める大学をイメージしています。



## 着 | 任 | 挨 | 拶

本年4月より、9名の教員が着任いたしました。

環境学部  
**前田 哲雄** 教授



私は生まれも育ちも鳥取で、これまで県内の小中学校の教員をしてきました。本学では、教職課程のみなさんと、「教職とは、そして求められる資質や能力とは」「これからの学校教育、そして教職の喜びとは」などをともに学び、伝えることでみなさんの夢を応援したいと考えています。よろしく願いいたします。

環境学部  
**袖洞 一央** 准教授



専門は地理学、ジオパーク、地域づくりです。琉球大、筑波大、北海道大と学生時代を過ごしました。ユネスコ世界ジオパーク専門員、社会教育委員などの仕事を通して、地域住民が主体の地域づくりを模索してきました。地理学という学問を通して、地球と人間の心地よい関係について学生や地域住民の方々と考えていきたいと思っています。

環境学部  
**門木 秀幸** 講師



廃棄物の中の「有用な物質」、「有害な物質」に着目し、環境リスクが適正に管理された循環型社会の構築が研究の大きなテーマです。また、食品廃棄物の資源化など新たなテーマにも取り組みながら、私たちの生活に身近な「ごみ」の問題について、面白さ、大切さを伝えて行きたいと考えています。

環境学部  
**甲田 紫乃** 講師



専門はエネルギー科学とグループ・ダイナミクスです。2012年まで京都で、2016年まで博士研究員としてオーストリアで、2016年から2年間大学教員として東京で過ごし、そして2018年鳥取にやってきました。鳥取では主に環境活動を通しての地域活性化の研究などに取り組む所存です。学生の皆様とともに、ここ鳥取から新しい形の環境活動を発信していけたら、と考えております。

経営学部  
**光山 博敏** 准教授



専門は、日本ではめずらしい「技術経営」という分野で、企業が持つ「技術」を如何に「収益」に結び付けるかという「技術戦略」を主体とした研究を行っています。これまで、学生、社会人時代を通じ、約15年アメリカに住んでいました。海外には現在も年に2~3回学会発表や研究で出かけることも多いため、グローバル人材育成にも力を入れていきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

経営学部  
**兪 成華** 准教授



本学では主に「人的資源管理論」、「経営学入門」などの科目を担当しています。私の専門は人的資源管理論・国際経営です。現在、日本企業の経営・生産システムの海外移転可能性を研究しています。これを活かした講義や演習などで、学生諸君にローカルとグローバルの両者の視点から問題の発見力・解決力を身に付けてもらいたいと考えています。

経営学部  
**島田 善道** 講師



担当科目は「経営組織論」と「国際経営論」です。大手電器メーカーに20年間在籍し、イギリスや中国、ブラジルなどで勤務してきました。この鳥取に来たのは初めてです。恵まれた自然環境を満喫しつつ、これから世界に羽ばたいていく皆さんの力になるよう頑張ります！

経営学部  
**谷口 謙次** 講師



担当科目は「経済史」、「経済・経営史」、「経営史」です。歴史科目というと、学生さんの中には難しい暗記科目と考える人もいるでしょう。私はむしろストーリーが大切だと考えています。歴史が作り出すストーリーは現代にまでつながります。その大切さを伝えたいと考えています。

経営学部  
**佐藤 彩子** 講師



出身地は大分県ですが、これまで東京都、福岡県、三重県と多様な地域に居住してきました。本学では、「地域経済論」等の地域系科目を担当します。地域は人間の営みの基本であり、日本一人口の少ない鳥取県は地域経済を学ぶ上で格好の場所です。フィールド調査等を通じて地域に出ていき、地域が抱える課題を皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。宜しくお願いいたします。



Campus Topics

# 環境学部 佐藤 准教授が廃タイヤを再生するキノコを国内で初めて発見しました

本学の環境学部 佐藤 伸 准教授の研究チームが、自動車の廃タイヤの成分を分解し、天然ゴムを取り出せるキノコを国内で初めて発見しました。

現在、廃タイヤは燃料として焼却したり粉砕して他の用途に使われたりすることが多く、天然ゴムとして再資源化されることはほとんどないため、環境負荷増加の一因となっています。タイヤは、主原料である天然ゴムの分子を硫黄で結合させることで弾力性を持たせていますが、廃タイヤを再資源化するためには、硫黄の結合だけを分解する技術が求められていました。



▲ シロカイメンタケ

ゴムと硫黄の結合を分解する機能を持つキノコが海外にあることは佐藤准教授がこれまでに明らかにしてきましたが、今回、研究チームは鳥取県東部の智頭町芦津で見つけた「シロカイメンタケ」と本学の裏山で採取した「シハイタケ」にも同様の機能があることを発見しました。これまでの研究から海外に生息するキノコよりも、今回鳥取県内で採取されたキノコの方がより天然ゴムを傷めずに残すことができ、ゴムの再生に適していることが判明したそうです。



▲ シハイタケ

今回の発見は、リサイクルが進んでいない廃タイヤの再資源化に役立つとされています。現在大手タイヤメーカーなどと連携し研究を進めており、5年後をめどにリサイクルに生かす方法を見つけ、実用化につなげていくとのことです。



環境学部  
佐藤 伸 准教授



▲ 学生と実験中の様子

## 編集者コメント



体に良いとされているキノコ。私もなるべくキノコを食べるように心がけています。(特に、しめじとベーコンのバター醤油炒めが大好きです。)そんな、普段何気なく私たちが食べているキノコに、ゴムを再生する力があることには驚きでした。佐藤先生は、「もともとはキノコが持つ分解する力を何かに応用できないか考えたのがきっかけでした。研究を始めるまではキノコがゴムを分解できることは思ってもみませんでした。でも、キノコのなかにはゴム状の物質を生産する仲間もいることをあとから思い出し、それならばゴムを分解するキノコが自然界にいてもおかしくはないのかなと、最近では納得できるようになりました」とおっしゃっていました。今回の佐藤先生の発見が、環境保全やこれからの天然資源の有効活用につながることを期待しています。おいしくて健康に良いだけではないキノコの魅力を、皆さんもぜひ知ってください!キノコを見る目が変わるかもしれません。



# 「岩美むらなかキャンパス」が開所！ 研究・地域連携の拠点が拡がります！



▲ 外観

平成30年4月16日(月)、鳥取県東部の日本海岸沿いに位置する岩美(いわみ)郡岩美町大谷(おおたに)地区に「岩美むらなかキャンパス」が開所し、同日開所式を行いました。



▲ 食堂部

この「岩美むらなかキャンパス」は、地域活性化を図ることを目的として、平成26年度に本学と「公共交通の活用に関する協定書」を締結するなど協力関係にある日本交通株式会社(鳥取市、大阪市)の澤志郎代表取締役から提案と支援を受けて、同社の創業者で故・澤春蔵氏の生まれた地にある築60余年の古民家を改修・増築したもの。2階建ての本邸(約235㎡)には28畳となる和室広間に加えて、新たに食堂やシャワーなどの水回り部分を増築(約52㎡)。この改修・増築には、本学学生の研究活動等が円滑に進むように様々な配慮が設計からなされ、本学はその古民家を無償で借りて“キャンパス”として使用します。



▲ 記念すべき看板設置

開所式では、江崎学長から「豊かな自然と、人と人との温かいつながりが息づいているこの岩美町で、学生が成長する場を与えられたことはとても素晴らしいこと」と挨拶。澤代表取締役と地元地区の方々からいただいた格別な協力と支援への感謝を述べました。

また、地域イノベーション研究センター・吉永センター長による利活用概要の紹介のほか、学生代表からは「このキャンパスを“拠点”としての利用だけではなく、地域との架け橋となるような活用を目指したい」と頼もしい謝辞がなされました。

本学は、この「岩美むらなかキャンパス」をJR鳥取駅前に開設している「まちなかキャンパス」と同様に、地域の方々や自治体・各種団体の方々、本学の学生や教職員が集う拠点として開所して、学習・研究や情報交換などの地域連携を深め、拡げていきます。



▲ 学生代表による謝辞と決意表明



# 2018年4月、食堂「すなばダイニング」OPEN!



平成30年4月2日から本学食堂は、すなば珈琲で有名な「ぎんりんグループ」に営業を行っていただくことになりました。すなば珈琲は、平井鳥取県知事の名言「スタバはないが鳥取には日本一のスナバ(砂場)がある」(2012年当時)にインスピレーションを受け誕生した鳥取を代表する喫茶店です。

食堂のメイン部分である「すなばダイニング」は、地元食材を主に使用し、単品のおかずから、定食、丼物、麺類、軽食、デザートメニュー等、総数約300種類以上を日替わり、週替わり、月替わりと変えて食事を提供いただいています。

また、喫茶コーナー「すなば珈琲」では、軽食を中心に提供しており、1限の学生に朝食を提供できるように朝8時30分から営業しています。

昼食時には多くの学生で賑わっており、昼休憩時間外は授業の合間の学生達の憩いの場になっています。

- 席数 / 約500席
- 営業時間 / すなばダイニング(食堂) 11時30分から14時まで  
すなば珈琲(喫茶コーナー) 8時30分から18時まで



▲ すなば珈琲(喫茶コーナー)



▲ すなばダイニング(食堂)



公立鳥取環境大学 すなばダイニング・  
すなば珈琲マネージャー 東田 慶 さん

若い学生の皆さんに利用いただいておりますので、安心・安全な食材を使い、食育の観点からバランスのとれた食事になるよう心がけています。また、学生の意見を聞きながら、飽きがこないように、メニューも改定していきたいと思ひます。







### ソフトボール部

私達ソフトボール部は、男子25名、女子11名、計36名で活動しています。今年度から、鳥取県ソフトボール一般男子の部にチーム登録をし、夏に行われる、全日本大会優勝を目指して、日々練習に励んでいます。活動は、週3回程行っており、指導者がいないため選手でメニューを考え、意見を出し合い、技術の向上に努めています。

昨年度までは、練習に来るのは5人ほど、ピッチャー不在、ユニフォームがないなど、試合を行なうことすらできない状況でした。しかし、先輩方の「チームを作り試合をしたい」、現部員の「大会に出場し勝利を掴み取りたい」という強い思いから、現在はユニフォームを着て社会人チームと試合を行い、接戦の試合を行なえるまでになりました。

チームとしては、不完全な部分も多く、まだまだ課題も多いですが、日々の練習を大切に、活気あふれる部にしていきたいと思います。

代表:伊藤 大輝 (環境学部 3年)



### 馬っこ部

私たち馬っこ部は現在48名の個性豊かなメンバーで活動しています。主な活動は、鳥取市を一望できる、空山ポニー牧場でボランティアとしてポニーパークやキャンプに参加することです。

ポニーパークでは、地元の子もたちが週末に牧場へ来てポニーに乗ったり、自然体験をしたりしています。私たちは子どもと一緒に遊び、命の大切さに触れ、子どもたちの学びの後押しをしています。キャンプは長期休暇に大阪から鳥取へ子どもたちを招き、開催します。私たちは、季節を感じられるプログラムや共同生活を通して、子どもたちの自主性を育むことのお手伝いをしています。

馬っこ部はこのようなボランティア活動をとおして、子どもの一番近くで一人ひとりの成長を感じることができます。これからも、子どもたちと共に成長していきたいと思っています。

代表:片木 早都紀 (環境学部 2年)

## 学友会 活動報告

5月31日(木)に平成29年度学友会総会を開催し、平成30年度の役員及び事業計画が承認されました。

### 平成30年度学友会運営体制

学友会会長	寄村 美聡 (経営学部 2年)
学友会副会長	武坂 亮 (環境学部 2年)
学友会書記長	紙屋 隆盛 (経営学部 2年)
学友会会計長	野上 量平 (環境学部 2年)
学生EMS委員会委員長	平井 晴己 (経営学部 2年)
クラブ会委員長	和久 大輝 (環境学部 2年)
大学祭実行委員会委員長	大野 純平 (経営学部 2年)
卒業アルバム製作委員会委員長	難波 拓磨 (環境学部 2年)
TUESちゃんちゃん愛好会委員長	上野 美滯 (環境学部 2年)
新入生歓迎会実行委員会	10月発足予定
卒業記念事業実行委員会	11月発足予定

※任期:平成30年6月1日~平成31年5月31日  
 ※新入生歓迎会・卒業記念事業の各委員会は非常設運営委員会

### 平成30年度学友会執行部及び運営委員会年間事業計画

事業	執行部及び各運営委員会常時活動
6月	ヒアリング(クラブ会) スポーツ大会(クラブ会)
7月	第14期卒業生への卒業アルバム発行(卒業アルバム製作委員会) JUMP~日本列島を軽くしよう~(学生 EMS 委員会) 学内清掃(学生 EMS委員会) 第1種会[クラブ代表者会議](クラブ会) 第III種会[ローテーション会議](クラブ会)
8月	鳥取ちゃんちゃん祭(TUES ちゃんちゃん愛好会)
9月	環境マネジメント全国学生大会(学生 EMS 委員会) 環境管理活動説明(学生 EMS委員会) ミニ環謝祭(大学祭実行委員会)
10月	内部監査(学生 EMS 委員会) 環謝祭(大学祭実行委員会) 第III種会[ローテーション会議](クラブ会) 新入生歓迎会実行委員会発足(執行部)
11月	TOYOTA SOCIAL FES!!2018(学生 EMS 委員会) 卒業記念事業実行委員会発足(執行部) スポーツ大会(クラブ会)
12月	年末大掃除(学生 EMS委員会) 平成30年度決算審議開始(執行部及び各運営委員会) 第I種会[クラブ代表者会議](クラブ会) 第III種会[ローテーション会議](クラブ会)
2019年1月	平成31年度予算審議開始(執行部及び各運営委員会)
3月	卒業記念パーティー(卒業記念事業実行委員会)
4月	新入生向け学友会レクチャー(執行部) 環境管理活動説明(学生 EMS 委員会) 新入生歓迎会・学内探検(新入生歓迎会実行委員会) サークル運営説明会・第III種会[ローテーション会議](クラブ会) 学外清掃(学生 EMS委員会)
5月	平成30年度学友会定例総会(執行部及び各運営委員会)



### ゼミ活動紹介 智頭の森ブランディング(磯野ゼミ)

鳥取県東部には、砂丘以外にも訪れるに素晴らしいところは数多くあります。その一つが智頭町です。智頭町は、鳥取県の南東部に位置し、その深い森、起伏のある地形、そして砂丘側にまでつながる清流千代川から形成される景観と、かつて「智頭宿」として栄えた歴史の面影を持つまちで、観光地としての可能性を大いに秘めています。

その智頭町を、いかに人に知ってもらい、その魅力を体験してもらうかを目指して、私たちマーケティングを学ぶ磯野ゼミは、「智頭の森ブランディング」プロジェクトを立ち上げ、2017年度後期から活動しています。このプロジェクトは、智頭町の活性化を主体的に担う智頭町役場、私たちと同様に智頭町の活性化に取り組むJVCケンウッドデザインと協力して推進するものです。

このプロジェクトに取り組むにあたり、まず智頭町のことを知ってもらい、その魅力を経験してもらいたい対象(ターゲット)として、私たち自身のような学生と設定しました。鳥取県内の学生はかなりの数が県外出身であるため、鳥取にいる間に智頭町の良さを知れば、その学生がまた別の県外の人に智頭町のこと伝え、その県外の人に関心を持ち来てくれることが想定されるからです。

その上で、本学の学生の智頭町の認知度と理解度を知るべく、アンケート調査を行ったところ、予想通り砂丘の認知度は90%を超えるものの、智頭町については20%未満にとどまるという結果でした。ただし智頭町のことを知っている一部の学生にとっては、智頭町はかなり魅力のあるところとして認識されていることも分かりました。すなわち、行ってみればその良さが分かるが、それ以前に知られていないという状態であることが明らかになりました。

そのような学生に向けた、智頭町のブランドとしての訴求イメージとして、智頭森林セラピーの訴求イメージを応用し、「森は包み込む、森は響く、森は伝える」と設定しました(図1)。そして智頭町の認知向上策の第一弾として、智頭町役場の方々にご協力頂き、学内で1月に「智頭式餅つき大会」を開催。大盛況に終わりました。



▲ 図1 智頭の森ブランド訴求イメージ



▲ 学内での智頭式もちつき大会

今年度は、学生が智頭町に行って楽しみたくなるような智頭観光プログラムを企画・実施し、今年度中に、実際に数十人が智頭町に自ら来るようになることを目標として掲げました。そのために、あらためて智頭町の魅力を私たちが再認識した上で、学生向け観光プログラムのアイデアを探すべく、4日間に渡る智頭フィールドワークを行いました。現在の智頭町の主要なプログラムである智頭森林セラピーの体験をはじめ、智頭宿の面影を残す智頭往来、芦津溪谷、板井原集落の散策と食事体験、智頭町に点在するカフェ巡り、旧山形小学校での各団体の活動視察、智頭の森サウンドスケープ体験等を行いました。



▲ 智頭の森フィールドワークの様子

フィールドワークを振り返り、現在の智頭町の観光資源は学生にとってどこに魅力があり、また課題があるのか、そしてどのような仕掛けであれば学生は来なくなるのかを、ゼミ内で議論しているところです。その議論から出てきた観光プログラムのアイデアのひとつとして「智頭の森ピクニック」があります。これは学生たちが車に弁当やハンモック、チェアなどを積んで出かけ、芦津溪谷の広場等でピクニックを楽しむというものです。ただしこのアイデアも、まず車を持っている学生がいること、またピクニックができるような広場の整備、森を汚さないためのルールづくりが必要となります。またこれから考えなければならないことやクリアしなければならないことは沢山ありますが、それもすべて私たち自身の学びであり、智頭町が鳥取県の素晴らしい観光地として皆に知られるようになるための過程です。

この「智頭の森ブランディング」プロジェクトのように、私たちのゼミは、私たち自身の学びのためだけでなく、その学びを通して実践的に地域や社会に貢献することを目指して活動を行なっています。



## プロジェクト名 鳥取の海をテーマとした子供向け体験プログラムを考える



鳥取県の魅力の一つでもある「海」。そこには多様な生物が生息し、漁業などを通じ多くの人々が関わりを持って生活をしています。このプロジェクト研究では、鳥取の海の「環境の多様性」「生物の多様性」「文化や産業の多様性」を学びます。そして、鳥取の海の魅力を子供達に伝える「体験プログラム」を企画し、これを地元のテレビ局(日本海テレビ)と連携して実行することを目指して活動をしています。

最初に、日本海テレビを訪問し、イベントの趣旨や企画内容について入念な打合せを行いました。



▲ 日本海テレビにおける打合せの様子

受講生達は主体的に企画を立案した後、実際にフィールドに出かけたり、試作品を作成したりするなど、企画の実現に向け試行錯誤をしながら、子供達が楽しみながら学ぶことが出来るプログラムの開発を進めています。



▲ 岩美町小栗浜におけるフィールドワーク



▲ 魚調理の実習(津ノ井公民館にて)

提案したプログラムは、テレビ局や漁業関係団体と協力し、岩美町に開所した「公立鳥取環境大学むらなかキャンパス」において夏休み(8月)のイベントとして実際に開催し、地域の子供達へ還元することが予定されています。

**プロジェクトアドバイザー** 地域イノベーション研究センター 太田 太郎 特命准教授

**プロジェクトメンバー**

環境学部	1年: 穴井 ゆりか、犬塚 大智、上田 壮一、宇津野 佑妃
	2年: 長本 彩花、深川 浩暉、堀 友樹、前田 仁也
経営学部	1年: 石原 晴生、伊東 福来、大橋 総治郎、小川 陽平
	2年: 多田 樹、永見 駿弥、野々上 咲弥、濱田 詩織、日高 皓介

詳しくは各お問い合わせ先へご連絡ください

公開講座



公開講座 2018

本学では一般の方を対象とした公開講座を実施しています。ぜひ、ご参加ください(要事前申込)。

- 日程：主なスケジュール参照
- 会場：鳥取県立図書館 他

お問い合わせ 企画交流推進課  
TEL 0857-38-6704  
E-mail kikaku@kankyo-u.ac.jp

大学祭

第18回 環謝祭(大学祭)

アーティストによるコンサートや芸能人によるトークショー、参加団体による出店やユニークなパフォーマンスステージなども予定しています。

- 日程：2018年10月20日(土)・21日(日)
- 会場：公立鳥取環境大学

お問い合わせ 大学祭実行委員会  
E-mail gaksuai@kankyo-u.ac.jp  
HP <https://2018kansyasai.jimdofree.com/>

情報メディアセンターの一般開放について

情報メディアセンター(図書館)では、地域の皆さまにご利用いただくよう、一般開放しております。館内での閲覧(自由)以外に、図書の貸出(視聴覚資料などを除く)も行っていますので、ぜひご利用ください。

● 開館時間

平日/8:50~19:00  
(夏冬春期休業中9:00~17:00)  
土曜日/9:00~15:00

● 休館日

日曜日、祝祭日、各月月末(平日、土曜日の場合)  
夏冬春期休業中の土曜日、年末年始  
その他臨時休館あり

図書の貸出には利用者カード(無料)が必要です。詳細はホームページをご確認ください。

お問い合わせ 情報メディアセンター  
TEL 0857-38-6730  
E-mail lib@kankyo-u.ac.jp  
HP <http://www.kankyo-u.ac.jp/media/>

主なスケジュール(平成30年9月~平成31年3月)

毎週木曜日 毎週月・水曜日	まちなか英語村(まちなかキャンパス) ミニ里山生物園(まちなかキャンパス)	
9/1	公開講座 高齢化・過疎化時代を支える情報サービス(鳥取県立図書館)	企画交流推進課
9/8	公開講座 高齢化・過疎化時代を支える情報サービス(西部サテライトキャンパス)	企画交流推進課
9/10~9/14	情報メディアセンター蔵書点検日(休館日)	図書情報課
9/14	3年次編入入試(環境)・大学院入試(1期)	入試広報課
9/18	公開講座 サイバーセキュリティ基礎の基礎(まちなかキャンパス)	企画交流推進課
9/25	後期ガイダンス	学務課
9/25~9/28	履修登録期間	学務課
9/29~9/30	AO入試(学内立入禁止)	入試広報課
10/1~10/5	履修科目変更期間	学務課
10/2	効率よく伸ばそう! TOEIC®高得点!(まちなかキャンパス)	企画交流推進課
10/6	公開講座 豊かな海洋生物資源を育む大切な沿岸海城(岩美むらなかなキャンパス)	企画交流推進課
10/9	効率よく伸ばそう! TOEIC®高得点!(まちなかキャンパス)	企画交流推進課
10/16	効率よく伸ばそう! TOEIC®高得点!(まちなかキャンパス)	企画交流推進課
10/19	月曜日の授業日/午後休講	学務課
10/22	午前休講	学務課
11/17	推薦入試	入試広報課
11/18	推薦入試	入試広報課
11/21	変貌する学校教育一次世代の学校・地域創生に向けて(とりぎん文化会館)	企画交流推進課
12/1	「森は海の恋人」の理念に基づくあらたな地域社会を目指して(鳥取県立図書館)	企画交流推進課
12/15	「森は海の恋人」の理念に基づくあらたな地域社会を目指して(倉吉交流プラザ)	企画交流推進課
12/22	地球温暖化と目指すべきエネルギー社会(西部サテライトキャンパス)	企画交流推進課
12/25	金曜日の授業日	学務課
12/29~1/3	事務取扱休業	総務課
1/8	金曜日の授業日	学務課
1/17	月曜日の授業日	学務課
1/18	センター試験前日準備(全日休講)	入試広報課
1/19~1/20	大学入試センター試験(学内立入禁止)	入試広報課
1/30	プロジェクト研究発表会	学務課
2/4~2/8	後期試験	学務課
2/13	私費外国人留学生・海外帰国生徒特別・社会人入試	入試広報課
2/14	3年次編入入試(経営)・大学院入試(2期)	入試広報課
2/13~2/15	後期追試験	学務課
2/25	一般入試前期日程(学内立入禁止)	入試広報課
3/2	県内市町村産業関連表からみる地域特性と政策(鳥取県立図書館)	企画交流推進課
3/9	県内市町村産業関連表からみる地域特性と政策(西部サテライトキャンパス)	企画交流推進課
3/13	一般入試後期日程(学内立入禁止)	入試広報課
3/20	学位授与式	総務課

\*発行日現在の情報です。最新の日程等は本学公式ホームページで確認ください。

「公立鳥取環境大学の今」を発信!

TwitterやFacebookページなどで公立鳥取環境大学の最新情報を発信しています。パンフレットや公式ホームページでは紹介しきれないニュースや出来事など「公立鳥取環境大学の今」を発信しています。

ソーシャルメディア公式アカウント一覧

[http://www.kankyo-u.ac.jp/about/social\\_m/](http://www.kankyo-u.ac.jp/about/social_m/)

再生紙を使用しています